

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成24年6月

高知工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	4
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	19

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

高知工業高等専門学校

(2) 所在地

高知県南国市

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気情報工学科，物質工学科，環境都市デザイン工学科

専攻科：機械・電気工学専攻，物質工学専攻，建設工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成24年5月1日現在)

学生数：学 科865名

専攻科 39名

学生数						単位:名
準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機械工学科	42	43	44	48	34	211
電気情報工学科	41	44	44	51	48	228
物質工学科	42	44	41	54	43	224
環境都市デザイン工学科	42	47	34	48	31	202
計	167	178	163	201	156	865
専攻科課程	1年	2年	合計			
機械・電気工学専攻	8	10	18			
物質工学専攻	3	6	9			
建設工学専攻	6	6	12			
計	17	22	39			

教員数：66名（再雇用教員を除く）

2 特徴

・沿革

高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）は昭和37年度に高知学園内で私立高知工業高等専門学校として発足した。入学定員は機械工学，電気工学及び化学工学の3学科ともに各45名とした。昭和38年度には国立高知工業高等専門学校が発足し，上記3学科（化学工学科は工業化学科に改称）の定員を40名とした。昭和41年4月1日に土木工学科が増設され，4学科編成となった（後に工業化学科は物質工学科に，土木工学科は建設システム工学科に改組）。さらに，平成12年4月1日には専攻科が設置され，機械・電気工学専攻（入学定員8名），物質工学専攻（入学定員4名），建設工学専攻（入学定員4名）の3専攻が発足した。平成16年度まで

には設置されているすべての専門学科及び専攻科の教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受け，工学全般にわたり，学問的，技術的に高い国際レベルの専門教育を行うことのできる物的・人的資源が完備していることが証明された。平成17年には卒業生，教職員，県内企業等が連携し，高知県内における産業技術の向上を図り，地域社会の産業発展に寄与することを目的に社団法人高知高専テクノフェローを設立した。その後，時代の流れによる教育内容の変化に対応するために，平成21年4月1日に電気工学科を電気情報工学科に，また建設システム工学科を環境都市デザイン工学科にそれぞれ名称変更した。

・教育

高知工業高等専門学校の建学の精神は，「風格高い高邁な精神の人間・技術者の育成」である。この教育理念は，初代校長野手悌士の著書「教養論」に記述されている，「技術者たらんとする者は，学問や技術に片寄ることなく，徳性を養い，風格の高い人間でなければならない。」に基づいている。

教育プログラムにおいては，入学当初から実験や実習などの実践的な教科を設置することにより，自ら考え実践することのできる技術者への成長を促している。さらに，本校では単なる技術や知識の教授のみに偏ることなく，「知育・徳育・体育」においてバランスの取れた人材を育成するために，クラブ・同好会活動などの課外活動も，学生間の切磋琢磨を通して徳性を養うことのできる場として重視している。それぞれの活動では全国規模の大会での入賞者も輩出するなど，この方面でも学生の可能性を引き出す教育を行っている。学生寮は，学生寮長を中心とした自治寮運営を行うことにより，自己管理のできる技術者への成長を促す教育施設として機能している。文化祭・体育祭などの全校規模の学校行事でも学生会主体の運営を行い，学生の自主性の涵養に努めている。また本校では学内の情報化を積極的に推進し，全国の高専に先駆けて学生寮を含む全学内にキャンパス無線LANシステムを導入した。このシステムをさらに有効に活用するために平成23年度からは全学生に携帯情報端末を配布し，最新の情報機器を利用した学生の教育支援及び生活支援に取り組んでいる。

II 目的

教育目的

本校の教育目的は、「本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と学則に定められている。

教育方針

教育目的を達成するために、本校においては創立以来「学生が自らすすんで実践することによって、学問的・技術的力量を身につけ、徳性を養い、将来創造力のある風格の高い人間・技術者として国際社会を主体的に生きることを目指させる」という教育方針を掲げ、学内の全ての施策は、この理念を実現させ、具体的に実践することを目標としている。

学習・教育目標

上記の教育方針に基づき、準学士課程及び専攻科課程に共通の学習・教育目標として次の3つの項目を身に付けることが掲げられている。

1. 基本的人格と社会的責任（技術者倫理）
2. 基礎的技術の習得と専門的技術の活用（技術者知識）
3. 豊かな創造力と行動力（技術者能力）

準学士課程の教育目的

各学科の教育目的は以下のとおり学則に定められている。

(1) 機械工学科

機械の構成、材料、加工、力学及び制御に関する機械工学の知識と技術を教授し、機械システムの計画、設計、生産で必要とされる実践的な能力を育成する。

(2) 電気情報工学科

電気、電子、情報及び通信に関する電気工学の知識と技術を教授し、エネルギー、エレクトロニクス、インフォメーション・コミュニケーションテクノロジーで必要とされる実践的な能力を育成する。

(3) 物質工学科

化学、生物、化学工学、環境及び情報に関する物質工学の知識と技術を教授し、工業薬品、材料化学、バイオテクノロジー、プロセス工学、及び環境化学の分野に於ける開発・生産・製造・管理で必要とされる実践的な能力を育成する。

(4) 環境都市デザイン工学科

公共施設、建築物や構造物などの土木・建築に関する建設工学の知識と技術を教授し、環境や防災に配慮した計画・設計・施工・管理で必要とされる実践的な能力を育成する。

専攻科の目的

本校では専攻科の目的を「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。」と学則に定めている。

専攻科の教育方針

上記の目的を達成するために、専攻科では教育方針を次のように定めている。

- 1) 実践的技術を駆使する研究開発能力、創造力をもつ技術者を育成する。
- 2) 広い視野をもち、国際性に優れ、協調性と指導力のある風格の高い人間・技術者を養成する。

専攻科の教育目的

専攻科の教育目的は以下のように定められている。

本校専攻科は、高等専門学校などの高等教育機関において、工学の基礎と実践的技術を修得した者に対して、さらに2年間の高度で専門的な技術・学問を教授することによって、実践的かつ創造的な研究開発能力を持つ高度な技術者を育成することを目的とします。

さらに機械・電気工学、物質工学及び建設工学の各専攻では、それぞれ、以下に示す具体的な教育目的を掲げて技術教育に取り組んでいる。

(1) 機械・電気工学専攻の教育目的

高専本科の機械工学科及び電気情報工学科のカリキュラムの上に立って、エネルギーや環境及び情報・制御技術に関わる基礎及び専門科目を教授し、ロボットや新エネルギー開発、環境機器や情報機器の開発など、日本の産業の基幹となる機械・電気融合分野で必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。

(2) 物質工学専攻の教育目的

高専本科の物質工学科のカリキュラムの上に立って、化学やバイオ技術ならびに環境技術に関する基礎及び専門科目を教授し、新素材や機能性材料の創製、微生物を利用した有用物質の生産、環境対策等で必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。

(3) 建設工学専攻の教育目的

高専本科の環境都市デザイン工学科のカリキュラムの上に立って、社会・環境・構造物を総合的にデザインする学問を教授し、地震・台風などの自然災害から人々の暮らしを守る社会基盤整備において必要とされる実践的かつ創造的な研究・開発能力を育成する。

Ⅲ 選択的評価事項A 研究活動の状況

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

地域の活性化や地元産業の振興に寄与するための拠点となることを目指す。県内外企業との共同研究の実施による技術力の向上など、総じて地域文化の向上に資することを目的とする。

高知県特有の問題である少子高齢化、過疎化、経済力の低迷、災害多発地帯など地域のニーズに応じた具体的な研究活動の内容として、下記に示したような分野のものがある。

IT 関連分野

- インターネット遠隔計測制御技術の開発
- 情報弱者へのコンピュータ操作支援に関する研究
- ITを活用した地域産業活性化に関する研究

環境に関する分野

- イオン、エアロゾルを利用した環境改善技術
- 地球周辺宇宙空間の環境に関する研究
- マイクロバブルを用いた環境改善や医療等に関する研究
- 超音波による有用物質の分離技術の開発
- 環境に優しい高分子合成
- 高効率熱電変換用セラミックスの開発
- 環境負荷を低減する新しい下水処理技術の開発
- コンクリートを用いた廃棄資源有効利用

防災に関する分野

- GPS 波浪・津波・潮位計の開発
- 南海地震による液状化及び港湾構造物の被害予測
- 河川流況と土砂動態のモニタリング技術の開発
- 各種構造のための高精度立体骨組解析法の開発

- その他

このような分野に関連する研究を推進するとともに、共同研究、技術相談なども積極的に推進することになっている。

2 選択的評価事項A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

地域の活性化や地元産業の振興に寄与するという本校の研究の目的を適切に機能させる拠点として、「地域連携センター」が、本校の教育研究に関する技術支援業務、地域への技術支援など、教育研究支援体制の向上に資することを目的として「教育研究支援センター」が設置され、それぞれ中心的な役割を果たしている。

地域連携センター設置の目的は、地域との連携を密とし、本校の有する人的・物的資源を有効に活用することにより、地域の活性化や産業振興に寄与するための拠点、出前事業や企業における人材育成事業など地域における教育支援の実践や、独立行政法人国立高等専門学校機構以外の者との共同研究等の実施による技術力の向上など、地域文化の向上に資することを目的とする。

目的を達成させるため、次の4部門が設置されている。

- ・産学共同部門： 地域の活性化及び産業振興につながる各種プロジェクトの企画・立案と実施に関すること。産業界等との共同研究，受託研究，技術相談，技術指導等に関すること。
- ・地域教育連携部門： 地域における文化的・科学的イベント及び出前事業の実施に関すること。
- ・リカレント教育部門： 公開講座及びリカレント教育に関すること。
- ・IT教育部門： IT関連教育に関すること。

地域連携センターは、本校専任教員の中から校長によって任命されたセンター長、副センター長の下に部門長4名ならびに各学科から選出された地域連携センター運営委員、事務として、総務課で構成されている。各学科から地域連携センター運営委員が選出されており、運営委員会の内容は、各学科会議を通じて全教員に伝わりとともに学科会議の意見を運営委員会に伝えることができる。

教員個人による研究に対する支援体制として、共同研究スペースがある。資料A-1-①-1に利用細則を示す。民間企業等との共同研究を行う研究担当者及び研究協力者が使用可能である。

資料A-1-①-1

「共同研究スペース利用細則」

高知工業高等専門学校地域連携センター共同研究スペース利用細則

制 定 平成19年11月 9日
一部改正 平成22年 4月21日
一部改正 平成23年 7月22日

(趣旨)

第1条 この細則は、高知工業高等専門学校地域連携センター規則（以下「センター規則」という。）第10条の規定に基づき、地域連携センター共同研究スペース（以下「研究スペース」という。）の利用に関し、必要な事項を定める。

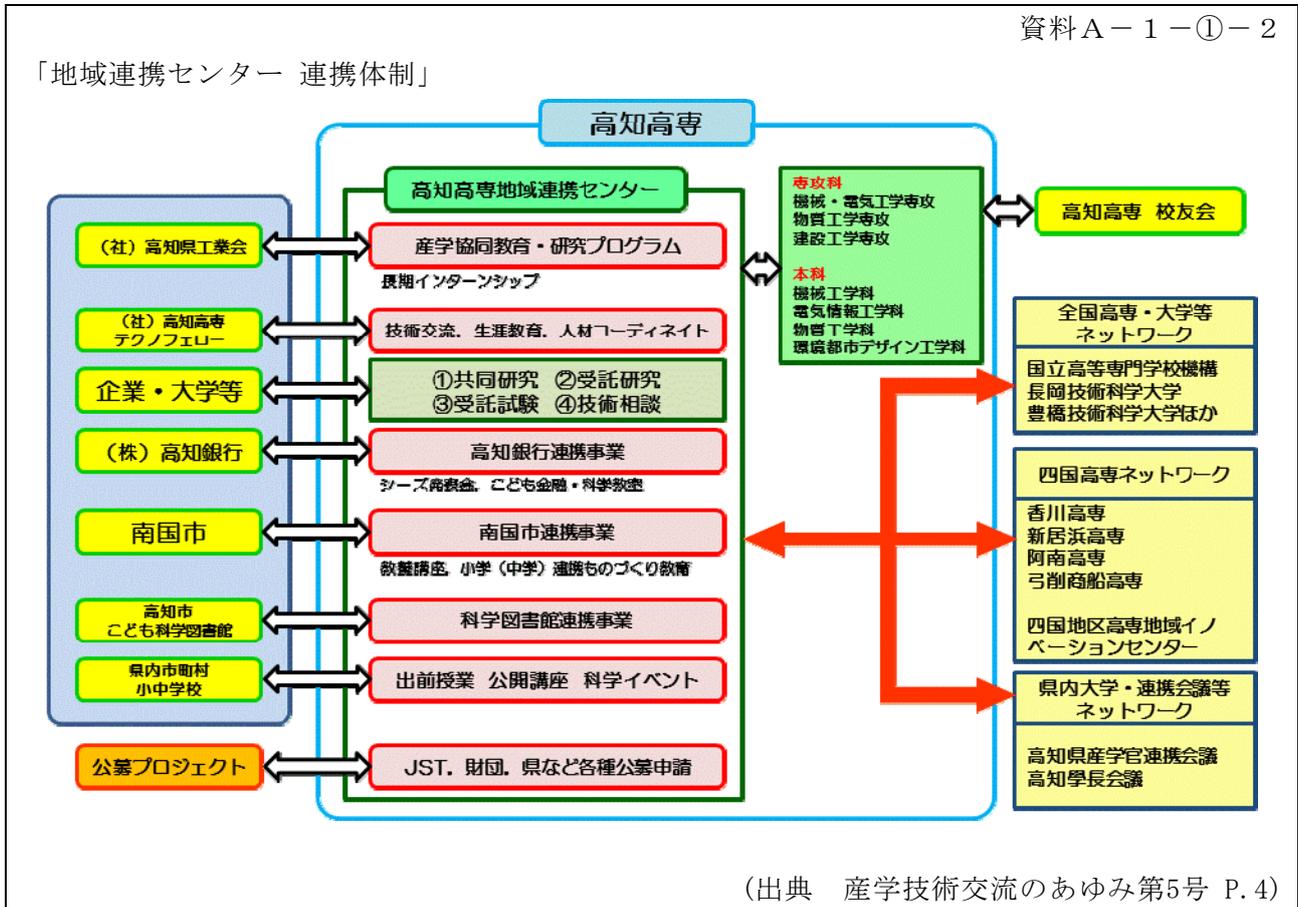
(利用目的)

第2条 研究スペースは、次の各号に掲げる目的に利用できる。

- (1) 民間企業等との共同研究及び受託研究（以下「共同研究等」という。）
- (2) その他、地域連携センター長（以下「センター長」という。）が必要と認めた事業

(出典 高知高専 総務課企画係)

また、地域連携センターを中心とした研究体制及び支援体制として、学外の様々な機関との連携も図られている。資料A-1-①-2に本校地域連携センターと外部組織との連携体制を示す。



次に、学外から本校を利用する場合の体制としては、本校事務組織との連携により、産業界や地域社会からの各種要請に対応するために必要な制度上の諸制度の概要と手続きの仕方を高知高専公式ウェブサイト内の「地域連携センター」の該当箇所に掲載している。一例として、共同研究の受け入れ手続きを資料A-1-①-3に示す。共同研究申し込みの書類、やり取りの流れ及び過去の活動事例も紹介されており、敷居が下がるように工夫されている。地域連携センターのトップページには、業務内容と目的が公開されている。さらに、高知高専を利用するための情報として、研究者総覧、研究シーズ集及び研究設備が掲載され、常時公開されている。

「高知高専利用方法について」

地域連携センター 活動内容(共同研究)：高知工業高等専門学校

高知工業高等専門学校
Kani National College of Technology

地域連携センター
Regional Collaborative Center

共同研究

制度の趣旨

民間企業等の研究者と高知高専の教員とが共通の課題について対等の立場で行う研究で、次のいずれかの形態で行います。

- ①高知高専において行う共同研究
民間企業から研究者と研究経費等を受け入れます。
- ②高知高専と民間企業等がそれぞれの施設で行う共同研究（分担型）
民間企業等から研究者と研究経費等、又は研究経費等のみを受け入れます。

受入手続き

①共同研究お申込み
高知高専へ事前にご連絡をいただき、調整を済ませ、共同研究のお申込みをいただきます。
共同研究申請書 (PDF / WORD)

②共同研究契約締結
経費や研究内容の合意のもと、企業様と高専で共同研究の契約を交わします。

③研究費・研究料の納付
高専へ研究費・研究料をお支払いいただきます。

④研究員の派遣
状況に応じて企業様の研究員を高専へ派遣いたします。

⑤教員の出張
状況に応じて企業様へ本校教員を派遣いたします。

共同研究の活動事例として以下のようなものがあります。

研究名	研究内容
建設汚泥固化物のコンクリートへの有効利用に関する研究	建設汚泥固化物を細骨材補充材として用いたときのコンクリートの強度特性や耐久性に関する調査研究を行う。
光電効果・静電噴霧による水クラスター大気イオンの同定	光電効果で生成したイオンや静電噴霧で生成したミストの同定を大気圧イオン化質量分析計 (APIMS) や微分型静電分級器 (DMA) を用いて行う。

(出典 高知高専地域連携センターウェブサイト)

資料A-1-①-4に地域連携センター事業計画を示す。産業界をはじめとして、他高専や官公庁組織などの共催事業、さらには、高知銀行や南国市との連携協力協定に基づく事業についても

活発な活動が行われていることがわかる。

資料A-1-①-4

「地域連携センター事業計画」

平成23年度地域連携センター実施事業			
○産学連携イベント等への参加			
事 項	主催機関	開催場所	開催日
高知県ものづくり技術展示会	財団法人高知県産業振興センター内 ものづくり地産地消センター	財団法人高知県産業振興センター(高知市)	6月3-4日
FOOMA JAPAN 2011国際食品工業展	社団法人日本食品機械工業会	東京ビッグサイト(東京都)	6月7-10日
第9回全国高専テクノフォーラム	独立行政法人国立高等専門学校機構・関東信越地区国立高専(世話校:東京高専)	学術総合センター(東京都)	8月4日
四国地区高専シーズ発表会―物質・化学分野― 併設:一般社団法人高知県発明協会知財総合支援窓口	四国地区高専地域イノベーションセンター(共催:(社)高知高専テクノフェロー 後援:(株)高知銀行)	高知高専	8月26日
イノベーション・ジャパン2011	独立行政法人科学技術振興機構(JST)・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	東京国際フォーラム(東京都)	9月21-22日
セミコン・ジャパン2011内「The高専@セミコン」	セミコン・ジャパン運営事務局((株)日経ビーアール内)	幕張メッセ(千葉市)	12月7-9日
			他
○会議等			
事 項	関連機関	開催場所	開催日
平成23年度四国地区高専地域イノベーションセンター運営委員会	四国地区高専地域イノベーションセンター(阿南高専・香川高専・新居浜高専・弓削商船・高知高専)	テレビ会議(四国地区5高専)	6月20日、3月28日
平成23年度高知県産学官連携会議	高知県・社団法人高知県工業会・高知大学・高知工科大学・高知県立大学・高知高専・特四国銀行・特高知銀行・独立行政法人科学技術振興機構・JSTイノベーションサテライト高知・財団法人高知県産業振興センター	高知会館、高知県工業技術センター 他	5月9日、7月12日、9月14日、12月5日、3月13日
高知グリーンイノベーション推進協議会	高知県・財団法人高知県産業振興センター・社団法人高知県工業会・高知県商工会議所連合会・高知大学・高知工科大学・高知県立大学・高知高専・特四国銀行・特高知銀行・特日本政策金融公庫高知支店	高知会館、高知県工業技術センター	6月24日、11月24日
南国市・高知高専 連携協議会	南国市・高知高専	高知高専	7月26日、3月27日
高知高専・高知銀行連携協力協議会	特高知銀行・高知高専	特高知銀行	6月21日
			他

(出典 産学技術交流のあゆみ第5号 P. 10)

次に、教育研究支援センターは、本校の技術支援業務に関する人的・物的資源を有効に利用することにより、技術に関する専門的業務を組織的かつ効率的に処理するとともに、センター所属職員の能力及び資質の向上をはかり、学生に対する実験・実習、卒業研究などの支援、教員の教育研究に関する技術支援、地域への技術支援など、本校の教育研究支援体制の向上に資することを目的として、設置された。目的を達成するため、機械系に関する業務を行う第一技術班及び電気情報、物質、環境都市デザイン系に関する業務を行う第二技術班がある。また、各班は、互いに連携し複合・融合する分野間の技術支援等、効果的な運用を図ること、センターは、必要に応じてプロジェクトチームを組織し、特別な業務にあたることもできる。

教育研究支援センターは、本校専任教員の中から校長によって任命されたセンター長、副センター長の下に技術班を統括する技術長、各班の業務の円滑な遂行を行うための班長ならびに各学科から選出された教育研究支援センター運営委員、地域連携センター運営委員及び情報処理センター運営委員から1名で構成されている。各学科から教育研究支援センター運営委員が選出されており、運営委員会の内容は、各学科会議を通じて全教員に伝わるとともに学科会議の意見を運営委員会に伝えることができる。

(分析結果とその根拠理由)

研究の目的の達成のために、地域連携センター及び教育研究支援センターを中心にして、学内の教員からも学外の産業界からも連携しやすい研究体制、支援体制が整備されている。その研究体制を機能させるために、学外の様々な機関との連携などの支援体制が積極的に実施されている。その結果、地域連携センターを中心にして開催される行事等も活発である。また、教育研究支援センターを中心として各教員の研究支援が活発に行われるようになってきており、実習工場も全ての学科で活用されている。

以上のことより総合的に判断して、本校の研究体制及び支援体制は、地域連携センター及び教育研究支援センターを中心にして、適切に整備、機能されていると判断できる。

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

研究の目的に沿った活動の成果として、地域社会との連携・協力の実績として、大型外部資金の例を挙げる。

① IT 関連分野

総務省戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)

「高知IPv6マイコンボードによるユビキタスセンシングに関する研究開発」(H21, H22)

「ホームネットワークを用いた高齢者安否確認システムと人材育成に関する研究開発」(H23, H24)

次世代インターネットの通信プロトコルであるIPv6対応の小型マイコンボード(高知IPv6マイコンボード)を高知県のベンチャー企業等と共同で開発し、新しいユビキタスセンシングへの応用技術を開発した。

② 環境に関する分野

平成23年度高知県産学官連携産業創出研究推進事業 「高知県の基盤産業である第一次産業を活性化させるマイクロバブルシステムの開発」(H23-25)

現在までの独自研究により得られた成果から、高知県の基盤産業である第一次産業の活性化につながるマイクロバブル活用機械装置ならびに、他産業にも活用可能な標準規格のマイクロバブル発生装置を平成25年迄に開発することを目的としている。

③ 防災に関する分野

「GPS海洋ブイを用いた革新的海洋・海底総合防災観測システムの開発」(H21-25)

宇宙技術活用のGPS津波計を考案し、沖合における精密な津波計測を目指して基礎・実用化・実証実験を実施してきた。この成果は、沖合20km迄の制限下で国家プロジェクトとして実用に供されてきた。さらに沖合への展開に向け、津波高測定用のGPS測位法の適用・超長距離のデータ送信等に対応できるGPS津波観測システム構築を考案したものである。

④ その他

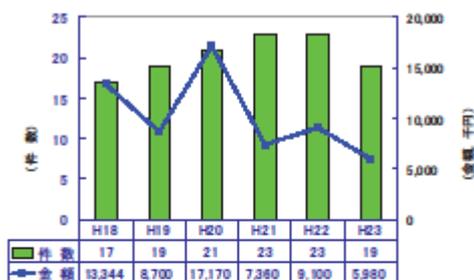
その他として、近い将来発生する南海地震に対応するための防災に関する研究や、環境及び廃棄資源の有効利用などの研究が実績としてある。

本校の外部資金調達状況を資料A-1-②-1に示す。共同研究や受託研究、寄附金の件数や金額、技術相談の受入数などは、件数が若干減少しているものや件数自体は、変わらないものの研究費が大きく上昇したのものがある。総じて平成18年度以降、社会的な不況の中にあるが、外部資金の獲得は順調に行われている。平成24年1月からコーディネーター(非常勤)1名を配置し、今後、さらに産学官連携が促進されることが期待されている。

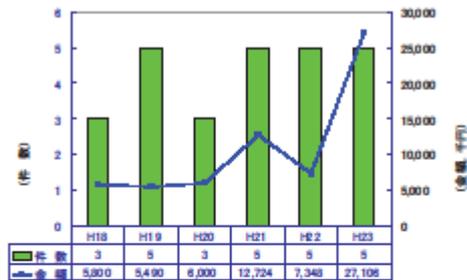
資料A-1-②-1

「外部資金の調達状況」

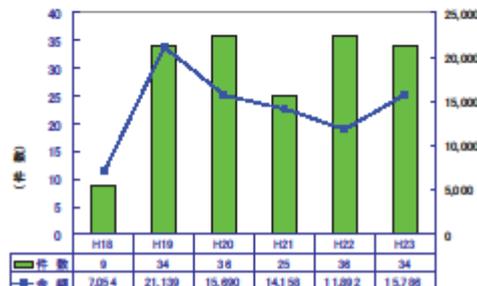
(1) 共同研究費



(2) 受託研究費



(3) 寄附金



(4) 技術相談件数



(出典 高知高専 総務課企画係)

また、科学研究費補助金の申請件数と採択件数を資料A-1-②-2に示す。毎年、総務課企画係を中心にして科学研究費補助金応募説明会が開催されており、採択率が徐々に高くなっている。しかしながら、申請率は減少傾向にあるため、今後は、申請率アップが課題となっている。

資料A-1-②-2

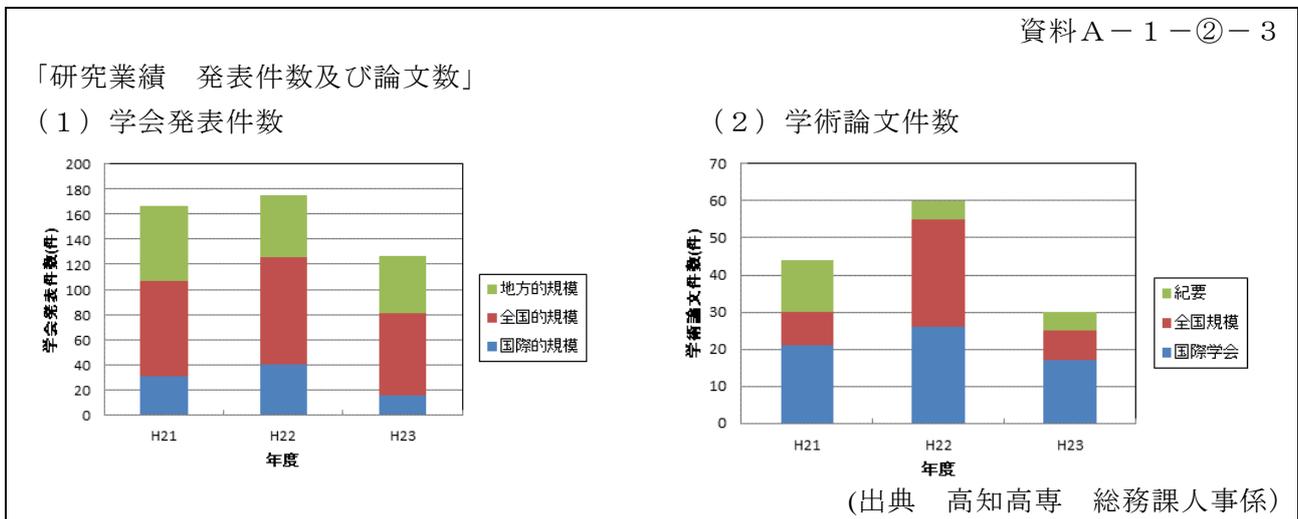
「科研費の申請率と採択率」

年度	新規申請	採択数			採択率(%) 申請数/教員数	申請率(%) 申請教員数/教員数
		新規	継続	計		
H23	30	10	7	17	45.9	52.2
H22	28	5	9	14	37.8	54.5
H21	27	4	8	12	34.3	53.1
H20	36	7	2	9	23.7	56.9
H19	35	2	3	5	13.2	55.9
H18	34	3	8	11	26.2	61.5

(出典 高知高専 総務課企画係)

学会等における発表件数及び論文数

本校教員の自己申告による研究業績調書から集計した研究業績発表件数を資料A-1-②-3に示す。学会発表件数は平成21～22年度で160件を超えているが、平成23年度は120件となる。また、平成22年度の論文数は、主要雑誌（国際・国内）で55編となるが、平成23年度は、最も少なく25編である。発表件数では、教員1名当たり約2件以上あるが、論文数で約0.5～1件となる。年度によって、変動はあるが十分な研究実績と考える。



研究業績に基づく受賞数及び特許出願状況

資料A-1-②-4に本校教員が過去5年間に研究業績に基づいて受賞などの表彰を受けた件名を示す。本校教員の自己申告に基づく表彰だけでも資料にあるような表彰を受けている。

資料A-1-②-5に、本校教員が過去8年間に得た特許出願数と権利化した特許件数を示す。平成16年度の法人化以降、教員の発明は高専機構に譲渡し、出願やライセンス契約等の実務は各高専で行われている。これらの資料から、技術の進歩に対応した教育を行うための専門的知識・研究能力のレベルアップに対する意識の高さがうかがえる。

資料A-1-②-4

「研究業績に基づく教員の受賞数」

年度	件数	内容
H23	1	第31回寺田寅彦記念賞受賞(細川光洋)
H22	5	(社)全国発明協会 全国発明表彰 発明賞(寺田幸博)
		高等専門学校情報処理教育研究委員会表彰(今井一雅)
		国立高等専門学校教員顕彰 分野別優秀賞 若手部門 学生生活指導分野(秦隆志)
		第3回国際圧入学会 IPA 研究助成賞(岡林宏二郎)
H21	9	(財)河川環境管理財団 河川整備基金助成事業 優秀成果 (岡田将治)
		電気学会産業応用部門 活動功労賞(藤原憲一郎)
		財団法人 日本膜構造協会 功労賞(小田憲史)
		科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(理解推進部門)(秦隆志)
		電気学会 高校生懸賞論文コンテスト指導者賞(細川光洋)
		日亜賞(多田佳織)
		日本エアロゾル学会 計測賞(長門研吉)
		地盤工学四国支部 特別表彰(技術開発賞)(岡林宏二郎)
		第13回防災まちづくり大賞 防災情報部門 消防科学総合センター理事長賞(岡田将治)
(財)河川環境管理財団 河川整備基金助成事業 優秀成果 (岡田将治)		
H20	3	国立高専機構主催教育教員研究集会 発表論文・文部科学大臣賞受賞(今井一雅)
		地盤工学四国支部 四国支部賞(研究・論文賞)(岡林宏二郎)
		土木学会四国支部 技術開発賞(岡田将治)
H19	1	(財)河川環境管理財団 河川整備基金助成事業 優秀成果 (岡田将治)

(出典 高知高専 研究者総覧 抜粋)

資料A-1-②-5

「特許出願状況」

	国内特許 出願件数	権利化した 特許件数	外国特許 出願件数	企業への ライセンス
16年度	1	0	0	0
17年度	0	0	0	0
18年度	1	0	0	0
19年度	0	0	0	0
20年度	1	0	0	0
21年度	4	1 (16年度出願分)	0	0
22年度	3	0	1	0
23年度	2 (うち1件は国内優先権 主張出願)	0	2	1

(出典 高知高専 総務課企画係)

学会・研究会等での代表的な役割

調査・研究プロジェクトだけでなく、以下のような全国的な学会や地域に根ざした研究会等においても、会長、理事、幹事等の役割を通して、研究活動の推進役を担うことで、研究の目的を達成している。資料A-1-②-6に平成18年度以降に本校教員が務めている役割を示す。

資料A-1-②-6

「学会・研究会等での代表的な役割」

1	(社)日本非破壊検査協会	理事
2	日本物理教育学会	本部評議員
3	日本混相流学会	評議員
4	日本混相流学会 中国・四国地区	担当理事, 代表者
6	日本科学教育学会 四国支部	幹事
7	計測自動制御学会 四国支部	顧問
8	電気学会 四国支部	支部長
9	土木学会 四国支部	副支部長, 幹事
10	地盤工学会 四国支部	幹事
11	全国高専マテリアルサイエンス教育研究ネットワーク	幹事
12	ブレイクスルー技術研究所(日本高専学会)	事務局長
13	高専シンポジウム協議会	理事
14	高知県都市計画審議会委員会	会長代理
15	高知県地盤工学研究会	会長
16	高知都市圏総合都市交通計画協議会	会長
17	高知県生コンクリート品質管理監査会議	副議長
18	高知県建設系教育協議会	理事
19	高知科学会 教育部会	幹事
20	高知市男女共同参画推進委員会	委員長
21	南国市都市計画マスタープラン策定委員会	会長
22	四万十町バイオマスタウン推進協議会	副会長
23	流域圏学会	理事

(出典 高知高専 研究者総覧 抜粋)

研究活動や成果についての報道

研究活動状況や成果についての報道一覧を資料A-1-②-7に示す。新聞及びテレビ局をはじめとして様々な広報活動が行われていることがわかる。H23年度の報道件数は、50件に上る。

「研究活動や成果についての報道」

平成23年度 報道・取材依頼一覧						
起案日付 取材日付	本校からの 依頼	報道機関か らの依頼	依頼報道機関	依頼（対応）科等	概 略	記事掲載日
2月9日	○		記者クラブ 高知新聞社 NHK高知放送	電気情報工学科 今井一雅	部科学省・平成21年度・大学教育・学生支援推進事業 【テーマA】大学教育推進プログラム採択テーマである高知 高専の「自己成長力を加速する次世代IoT活用教育」の報道 機関を対象とした、携帯情報端末を使った英語の公開授業 の実施	NHK高知放送：2月9日 高知新聞：2月10日 読売新聞：2月10日 日経新聞：2月10日
2月10日		○	日経新聞	電気情報工学科 今井一雅	「マイコンボード」次世代ネット規格対応	日経新聞：2月18日
3月23日	○		記者クラブ NHK高知放送 高知新聞社	環境都市デザイン工学科 岡田将治	須崎市役所及び須崎駅周辺における津波調査について	高知新聞：3月28日 朝日新聞：3月28日 毎日新聞：3月28日 読売新聞：3月28日 NHK高知放送：3月24日 高知放送：3月24日 さんさんテレビ：3月24 日 FM高知：3月24日
1月末		○	読売テレビ	環境都市デザイン工学科 寺田幸博	G P S 津波計について	読売テレビ：4月3日 （たかじんの そこまで 言って委員会）
4月1日		○	高知新聞	環境都市デザイン工学科 寺田幸博	G P S 津波計について	高知新聞：4月6日
4月6日		○	NHK高知放送	環境都市デザイン工学科 寺田幸博	G P S 津波計について	NHK高知放送：4月6日 （こうち情報一番）
4月11日	○		記者クラブ	環境都市デザイン工学科 岡林宏二郎	石巻、南三陸、陸前高田、釜石などの津波被災地調査につ いて	高知新聞朝刊：4月22日
4月19日	○		記者クラブ	学生課・電気情報工学科 今井一雅・テクノフェロー	高知高専〇B人材活用事業について	高知新聞朝刊：4月23日 日本経済新聞：4月23日 さんさんテレビ：6月1日 （SUNSUNニュース 20： 54～9：00） NHK高知放送：6月1日 （こうち情報いちばん） KUTVテレビ高知：6月1日 （イブニングKOCHI） 高知新聞：6月2日 朝日新聞：6月2日 読売新聞：6月2日 毎日新聞：6月2日
6月23日		○	日経新聞	物質工学科 秦隆志	研究内容の掲載について	日経新聞：6月29日

以下省略

(出典 高知高専 総務課)

(分析結果とその根拠理由)

研究の目的に沿った活動の成果として、観点に示したように、多くの地域との連携や展開が実施され、数多くの研究実績や特許出願、学会活動の記録が残されている。これらの活動により、本校に持ち込まれる共同研究や受託研究、奨学寄附金、技術指導等の件数や金額も順調に推移している。また、関連した研究テーマをさらに発展させるための、科学研究費の新規申請数及び採択数の向上にも努めている。

これらの研究によって得られた成果を、学会活動を通じてだけでなく、FOOMA JAPAN(国際食品工業展)、イノベーション・ジャパン2011-大学見本市、高専機構主催の「全国高専テクノフォーラム」に出展した。また、四国地区高専地域イノベーションセンター主催の「四国地区高専シーズ発表会」においても発表、意見交換することで地域に還元し、研究の目的に沿った活動が行われている。

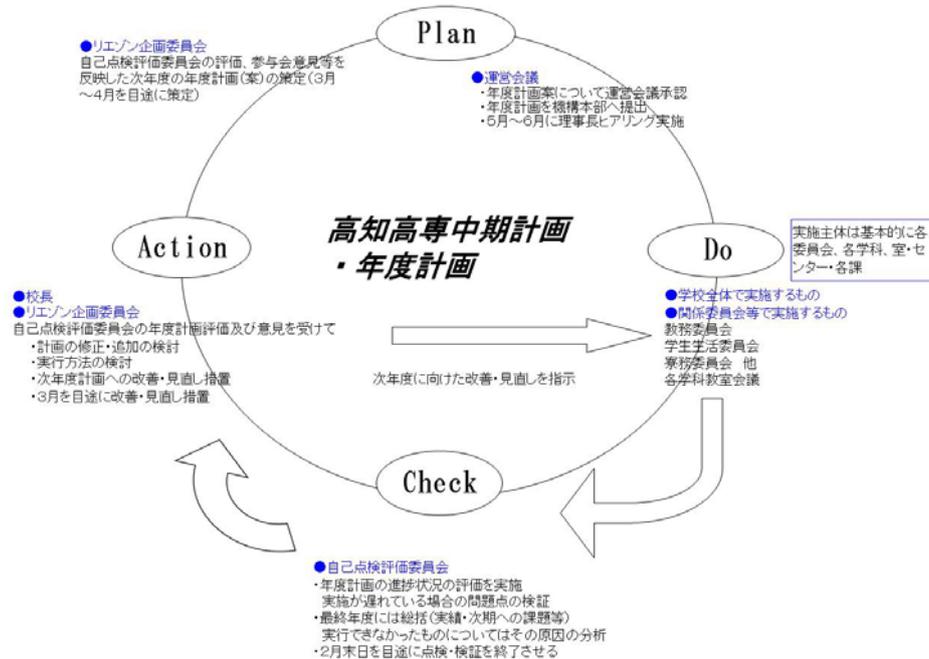
観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

平成12年の専攻科設置、平成16年の独立行政法人化を契機に研究環境の整備・改善を行い、さらなる地域との連携を目指してきた。このような状況の中で、研究活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図るための体制として、資料A-1-③-1のようなスパイラルアップシステムがある。

「PDCAサイクル」

第2期中期計画・年度計画 PDCAサイクル (H22.9.16 運営会議)



(出典 高知高専 総務課総務係)

PDCAサイクルを動かす重要な委員会及び組織が設置されている。それぞれの取り組み状況及び活動の内容を示す。

(1) 地域連携センター運営委員会

地域連携センターのセンター長が委員長を務め、以下の事項について審議を行っている。

- ・機構以外の者との共同研究に関すること。
- ・機構以外の技術者に対する技術教育に関すること。
- ・機構以外の者に対する学術情報の提供に関すること。
- ・校内及び他大学等との共同研究及び連携に関すること。
- ・地域社会に対する学術情報の提供に関すること。
- ・産学連携センター広報誌発行に関すること
- ・その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(2) 参与会

外部アドバイザーシステムであり、1年に1回程度開催している。参与は、本校の職員以外の者で、本校の基本理念に理解があり、高等専門学校の教育に関し、広く、かつ、高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱している。参与は、本校の運営に関し、校長の求めに応じて意見を述べるものとしており、科研費を含む外部資金獲得状況が報告され、それについての改善を図るための意見を伺うことができる。平成23年度で第14回を数え、毎回、報告書を作成している。本校の研究の目的に関することでは、資料A-1-②-1及び資料A-1-②-5に示す「外部資金獲得・産

学連携・知的財産について」さらには「地域連携(高知県工業会，高知銀行，南国市，県内大学との連携)について」報告されている。

(3)自己点検・評価委員会

この委員会は，本校の教育水準の向上を図り，本校の目的及び社会的使命を達成するため，教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うもので，必要に応じ開催し，以下の事項について審議を行い，毎年，自己点検報告書をまとめている。現在では本委員会の下に，JABEE 専門部会，専攻科継続審査専門部会，認証評価専門部会を置き対応しているところである。

- ・自己点検・評価の基本方針に関すること。
- ・自己点検・評価項目の設定に関すること。
- ・自己点検・評価の実施に関すること。
- ・自己点検・評価報告書の作成及び公表に関すること。
- ・本校の教職員以外の者による自己点検・評価の検証に関すること。

(4)リエゾン・企画委員会

本委員会は，以下の項目について審議を行い，各室等との連絡調整に当たる。

- ・本校の運営に関する渉外事項
- ・本校の運営に関する企画事項
- ・ファカルティ・ディベロップメントの推進に関する事項

以上の4つの委員会それぞれの役割をPDCAに分類すると，(1)は「D0」，(2)及び(3)は「CHECK」，(4)は「PLAN」と「ACTION」の役割を担うものとなっている。

本校における研究の目的を達成するために，平成20年1月より地域連携センター内に資料A-1-①-1に示す，共同研究に必要なスペースを作っている。このスペースには，利用登録を行えば，学外者もこのスペースで本校教員と共同研究を行うことができる。実際には，平成20年度途中から約1年間民間企業の方がこの部屋を利用して本校教員と共同研究した実績がある。また，高知県産学官連携産業創出研究推進事業のように各学科の教員が横断的にプロジェクト研究を行う際，分散することなく研究できるスペースが必要となる。そこで，平成22年度にそのような研究に対応した場所を規約改正により，増加した。資料A-1-③-2に共同研究スペース利用状況を示す。資料中の室名4がこれに該当する。各部屋共に利用状況が高いことがわかる。

「共同研究スペース利用者」

共同研究スペース利用者			
室名	利用許可期間	研究課題	利用者
1	H20.1.1～H20.3.31	屋外計測器用キャパシタ蓄電式ソーラー電源の製品化、技術相談、技術開発	野村 弘
1	H20.4.1～H21.3.31	屋外計測器用キャパシタ蓄電式ソーラー電源の製品化、技術相談、技術開発	野村 弘
1	H21.4.1～H22.3.31	県道四国カルスト公園縦断線における走行支援システム～キャパシタを活用した電源部の検討～	野村 弘
1	H22.4.1～H23.3.31	県道四国カルスト公園縦断線における走行支援システム～キャパシタを活用した電源部の検討～	野村 弘
1	H23.4.1～H23.8.30	レーザー産業技術開発	池上 浩
2	H20.1.8～H20.3.31	酸化亜鉛薄膜を使った紫外線センサやガスセンサの開発	岸本誠一 外
2	H20.4.1～H21.3.31	酸化亜鉛薄膜を使った紫外線センサやガスセンサの開発	岸本誠一 外
2	H21.4.1～H22.3.31	酸化亜鉛を使った紫外線センサの開発	岸本誠一 外
2	H22.4.1～H22.3.31	四万十川流量観測精度検証、FM防災ラジオシステムの実用化	岡田将治 外
2	H23.7.15～H24.3.31	四万十川流量観測精度検証、FM防災ラジオシステムの実用化	岡田将治 外
2	H24.4.1～H25.3.31	ADOPを用いた洪水状況と掃流砂・浮遊砂量の同時計測技術の構築	岡田将治 外
3	H20.1.1～H20.3.31	GPSブイを用いた津波・波浪防災システムの総合的研究	寺田幸博 外
3	H20.4.1～H21.3.31	GPSブイを用いた津波・波浪防災システムの総合的研究	寺田幸博 外
3	H21.4.1～H22.3.31	室戸岬沖GPS津波計の開発	寺田幸博 外
3	H22.4.1～H22.3.31	室戸岬沖GPS津波計の開発	寺田幸博 外
3	H23.4.1～H24.3.31	室戸岬沖GPS津波計の開発	寺田幸博 外
3	H24.4.1～H25.3.31	室戸岬沖GPS津波計の開発	寺田幸博 外
4	H22.5.17～H23.3.31	マイクロバブルを用いた環境改善や医療等に関する研究	秦 隆志 外
4	H23.4.1～H24.3.31	マイクロバブルを用いた環境改善や医療等に関する研究	秦 隆志 外
4	H24.4.1～H25.3.31	マイクロバブルを用いた環境改善や医療等に関する研究	秦 隆志 外

(出典 高知高専 総務課企画係)

また、学生の意見を汲み上げる制度として、以下のものがある。

(5) 専攻科学生意見交換会

専攻科学生から様々な要望や意見を聞くために教員と専攻科生との懇談会を、年1回開催している。校長、専攻科長、専攻主任が出席しており、ここで出された学生控室の改善などは、教務委員会で審議し、要望に応じて対応している。その際、研究に関する意見がある場合は、地域連携センター運営委員会で参考意見として取り扱われる。

(分析結果とその根拠理由)

研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制として、「地域連携センター運営委員会」、「参加会」、「自己点検・評価委員会」及び「リエゾン・企画委員会」などの組織があり、新たなるプロジェクト研究の発掘や各種外部資金の申請などが積極的に行われており、体系だって機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学術・研究協力に関する地域協定，プロジェクト研究，（社）高知高専テクノフェローの設立などを通して，地域の産業界の協力を得ながら，地域で開催される各種セミナーや学会等への参加件数の増加，共同研究費・受託研究費・奨学寄附金の外部資金の増加や技術相談，科学研究費の採択数の増加など，多面的な実績がある。

(改善を要する点)

特になし

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

研究の目的を達成するために，その中心的な役割を果たしているのが地域連携センター及び教育研究支援センターである。ここでは，地域産業との共同研究や受託研究，技術支援の推進，研究成果に関する講演会やセミナーの開催を積極的に実施しており，この活動により，外部資金の調達状況などは年々上昇傾向にある。また，学術・研究協力に関する協定，様々なプロジェクト研究も推進されている。研究への支援体制としても，共同利用スペースや文部科学省内地・外地研究員への応募などがあり，積極的に利用されている。

次に，研究活動とその実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制として，地域連携センター運営委員会や外部評価を受ける参事会，自己点検・評価委員会，リエゾン・企画委員会において，校長の指導のもと実施されている。それぞれの役割は明確であり，体系的なシステムとして機能している。

以上のように，本校の研究活動の状況として，研究の目的に照らした研究体制や支援体制は整備・機能しており，また，研究の目的に沿った活動の成果は上がっているといえる。

(4) 目的の達成状況の判断

地域産業の活性化，地域経済の向上に十分に貢献しており，研究を通じて得たものを，教育の質の向上に役立てており，本校の研究のみならず教育の活性化に還元している。以上のことより，目的は十分に達成されていると言える。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

地域との連携を密とし、高専の有する人的資源を有効に活用することによって、地域の活性化に寄与するための拠点となることを目指す。出前授業や企業における人材育成事業など地域における教育支援を行い、総じて地域文化の向上に資することを目的とする。

具体的には、3つの内容に分かれているが、講座名及びその目的などは、以下に示すとおりである。

1. 出前授業

小・中学生のみなさんに、科学技術や人文・数理科学への興味・関心を深めてもらうこと、そして高知高専への理解を深めていただくことを目的として、出前授業を実施する。

南国市との連携事業として、地元小学校と連携した新たなものづくり教育についても実施する。

2. 公開講座

地域社会との交流を図るため、また、地域の小・中学生に、ものづくりなどに親しんでもらうため実施する。

○一般市民へのリカレント教育

情報スキルアップ講座（一般市民対象及び高知県小・中・高・特別支援学校教員対象）

教養講座（高知高専を地域の人々に親しんでもらう機会を提供し、理解を深めてもらうための文学、歴史、哲学の総合教養講座）

○連携事業

高知銀行：こども金融・科学教室において、科学の楽しさを知ってもらうための講座

南国市：南国市防災フォーラム 地域で始める南海地震対策、東日本大地震災害調査報告会、
南国市子ども防災キャンプ

○学生・社会人対象の技術習得講座

「橋梁の維持・管理・補修・補強」講習会

技術士第一次試験受験講座、電験三種受験対策講座など

○体験入学

本校へ入学を希望する中学校3年生対象に施設の見学、学校及び各学科の説明、体験学習、クラブ見学

○キャンパスアドベンチャー

小中学生を対象とした、科学に親しんでもらうための主として実験・実習

○オープンキャンパス

地域の幅広い年齢層の子供を対象とした、科学に親しんでもらうための主として実験・実習

3. イベント等への出展

地方公共団体、教育委員会、独立行政法人、PTA等各種団体からの依頼により、地域への貢献・地域との連携をより一層推進することを目的にイベント等への出展を実施する。

○連携事業

南国市：地域商店街の市におもしろ科学実験、南国市夏休み子供教室、からくり半蔵研究会 ものづくり教室

○各種団体からの科学実験・実習などの出展依頼

大洲青少年交流の家、高知市子ども科学図書館、各小学校の放課後児童クラブ及びPTAなど

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況)

地域との連携を密とし、高専の有する人的資源を有効に活用することによって、地域の活性化に寄与するための拠点となることを目指す。出前授業や企業における人材育成事業など地域における教育支援を行い、総じて地域文化の向上に資することを目的とする。

教育サービスの目的が記載されている規定等の該当箇所を資料B-1-①-1に示す。

実施するテーマは、前年度の3月末までの期間に各学科、関係委員会などで検討することになっており、地域連携センター運営委員会で出前授業、公開講座及びイベント内容を審議し、運営会議の報告を経て、実施するようになっている。さらに、リエゾン企画委員会では、地域連携センター運営委員会で前年度実施された事業について検討を行い、例えばこの地区の出前授業を重点的に増やすなどを年度計画に企画、立案し、運営会議で審議の上、決定される。次年度、その年度計画に従って、地域連携センター運営委員会で出前授業、公開講座及びイベント内容を審議し、運営会議の報告を経て、実施するPDCAサイクルが確立されている。

資料B-1-①-1

「高知工業高等専門学校地域連携センター規則 第2条」

高知工業高等専門学校地域連携センター規則

制 定 平成19年3月30日

(趣旨)

第1条 高知工業高等専門学校内部組織規則第3条第2項の規定に基づき、高知工業高等専門学校地域連携センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、地域との連携を密とし、高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）の有する人的・物的資源を有効に活用することにより、地域の活性化や産業振興に寄与するための拠点、出前事業や企業における人材育成事業など地域における教育支援の実践や、独立行政法人国立高等専門学校機構以外の者との共同研究等の実施による技術力の向上など、地域文化の向上に資することを目的とする。

(出典 高知工業高等専門学校地域連携センター規則)

教育サービスの目的を達成させるための計画として、将来構想(中期計画)に平成24年度の年度計画がある。年度計画から出前授業、公開講座及びイベントに関する部分を抜粋し、資料B-1-①-2に示す。

「年度計画からの抜粋」

	将来構想(中期計画)	平成24年度計画の事項
【3. 社会との連携, 国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献, 理科教育支援, 卒業生ネットワークの構築, 国際交流協定の締結, 学生の海外派遣, 留学生の受入等)】	③地域の小・中・高との連携授業	③地域の学校との連携授業の実施 ・地元教育委員会や小中学校と連携し, 連携授業を実施する。
	④開講座等による地域生涯学習の推進	④小・中学校等への出前授業及び地域生涯学習推進のための公開講 ・高知県下の小・中学校に対し, 年間計画をたてて出前授業を実施する。 ・高知市の小・中学校の出前授業の実施件数の増加を目指す。 ・全公開講座の満足度を70%以上にすることを目標とする。

(出典 高知高専 将来構想(中期計画)・平成24年度年度計画原案)

教育サービスの目的及びその目的を達成するための計画や具体的方針が公開されているウェブサイト等の該当箇所を資料B-1-①-3, B-1-①-4及びB-1-①-5に示す。

「出前授業(小中学向け)」

地域連携センター活動内容(出前授業)：高知工業高等専門学校

高知工業高等専門学校
Regional Collaborative Center

地域連携センター > Top > 活動内容 > 出前授業

出前授業(小中学校向け)

高知高専では、小・中学生のみならず、科学技術や人文・数理解科学への興味・関心を深めてもらうこと、そして高知高専への理解を深めていただくことを目的として、出前授業を実施しています。

出前授業の一覧と詳しい内容は、下記をご覧ください。

■ 休業中・休日等の出前授業やPTA行事・イベント等への出展お申し込みはこちら

お申し込みから実施までの流れ

- 4月中旬に、各学校へメールにてご案内致します。
- 「平成23年度出前授業一覧」よりテーマをお選び下さい。
- 「出前授業申込書」に記載の上、5月上旬までに、高知高等専務課企画係まで郵送にてお申し込みください。
- 具体的な日時や実施場所等の調整・授業内容等打ち合わせいただき、ご希望がありましたら文書にて承諾書を送付致します。
- 出前授業実施
- 出前授業終了後、「出前授業受講報告書」(出前授業実施前に送付予定)をご提出願います。

ご理解いただきたいこと

出前授業にかかる経費及び講師旅費につきましては、原則として本校が負担しますが、生徒数等により、材料費等のご負担をいただく場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

(出典 高知工業高等専門学校 地域連携センターウェブサイト)

<http://www.jm.kochi-ct.ac.jp/sangaku/activity/demae/index.html>

資料B-1-①-4

「公開講座」

地域連携センター 活動内容(公開講座)：高知工業高等専門学校

高知工業高等専門学校
Kochi National College of Technology

地域連携センター
Regional Collaborative Center

公開講座

高知高专では、地域社会との交流を図るため、また、地域の小・中学生に、ものづくりなどに親しんでもううために、さまざまな公開講座を開催しています。

今年も、小・中学生のみなさんには、レゴブロックを使ったものづくりやおもしろ化学実験、一般の方には技術系実務資格取得、パソコン、文学や歴史、英会話など、幅広い分野の講座をご用意しています。

あなたも楽しく学んでみませんか？ぜひお気軽にご参加ください。

公開講座一覧

関連リンク

(出典 高知工業高等専門学校 地域連携センターウェブサイト

<http://www.jm.kochi-ct.ac.jp/sangaku/activity/kkouza/index.html>)

資料B-1-①-5

「イベント出展」

地域連携センター 活動内容(出前授業)：高知工業高等専門学校

高知工業高等専門学校
Kochi National College of Technology

地域連携センター
Regional Collaborative Center

休業中・休日等の出前授業や
PTA行事・イベント等への出展

高知高专では、地方公共団体、教育委員会、独立行政法人、PTA等各種団体からの依頼により、地域への貢献・地域との連携をより一層推進することを目的にイベント等への出展を実施しています。

出前授業（小中学校向け）はこちら

お申し込みから実施までの流れ

1. 高知高专総務課企画係までお電話・メール・FAX等でお申し込みください。講座内容は、ご相談いただきましたら出来る範囲で対応させていただきます。平成23年度出前授業一覧や過去の実施状況をご参考にしていただいても構いません。
2. 実施が決定しましたら、実施概要等の提出をお願いします。ご希望がありましたら文書にて承諾書を送付致します。
3. 講座実施

ご理解いただきたいこと

- 講座にかかる経費及び講師旅費につきましては、原則として本校が負担しますが、生徒数等により材料費等のご負担をいただく場合がありますので、あらかじめご了承下さい。
- 会場の手配、参加者への開催の周知は利用者側をお願いします。

お問い合わせ先
高知工業高等専門学校
地域連携センター
(担当)事務 総務課企画係
TEL: 088-864-5802
FAX: 088-864-5818
kikaku@jm.kochi-ct.ac.jp

(出典 高知工業高等専門学校 地域連携センターウェブサイト

<http://www.jm.kochi-ct.ac.jp/sangaku/activity/kkouza/index.html>)

(分析結果とその根拠理由)

保護者、小中学生、小・中学校教員、地域住民、企業等に対して、各種学校開放事業を、毎年積極的に実施している。そのため、出前授業、公開講座及びイベント出展の件数は、年々増加傾向にある。

地域社会に開かれた学校として、教育研究の成果を広く社会へ還元し、地域住民の生涯学習、地域貢献、社会との連携を積極的に推進している。

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

平成23年度の出前授業のテーマ名、日時及び参加者数を抜粋したデータを資料B-1-②-1に示す。出前授業は、48回実施されており、参加した延べ人数は、1,535名となる。

資料B-1-②-1

「H23 年度出前授業 一覧」

○出前授業(H23年度)											
区分	講座No.	日時	対象				担当教員		タイトル	備考	
			市町村	学校名	学年	人数	学科	氏名			
出前授業	1	5	5/26(木) 11:45~12:35	四万十市	八東中学校	中1~3	38	総合科学科	池谷江理子	地震・津波から命を守るには？	
	2	51	6/7(火) 13:20~15:10	高知市	春野中学校	中1	115	環境都市デザイン工学科	岡林宏二郎	南海地震による被害を学ぼう	
	3	8	6/9(木) 13:55~14:40	香美市	舟入小学校	小5	19	総合科学科	David Grant	All of Sounds of the English	
	4	39	6/14(火) 14:30~15:20	土佐市	土佐南中学校	中2	36	電気情報工学科	松内尚久	磁石と電磁石の不思議	
	5	44	6/15(水) 10:30~12:10	中土佐町	久礼中学校	中2~3	97	環境都市デザイン工学科	寺田幸博	津波について考える	中2,中3と別々に申込みがあったが、希望講座が同一のため同時に実施した。
	6										
	7	18	6/20(月) 14:45~15:35	中土佐町	久礼中学校	中2	48	機械工学科	杉山和久	3D(3次元)の世界	
	8	51	6/24(金) 14:05~15:45	四万十市	十川小学校	小5-6	25	環境都市デザイン工学科	岡林宏二郎	南海地震による被害を学ぼう	
	9	43	6/24(金) 14:30~15:30	南国市	三和小学校	小4	18	物質工学科	養 隆志	スライムを作ろう！	
	10	39	6/28(火) 10:35~11:20	中土佐町	上ノ加江小学校	小4~5	16	電気情報工学科	松内尚久	磁石の不思議	
	11	34	6/28(火) 10:50~12:30	安芸市	井ノ口小学校	小4	18	電気情報工学科	藤原重一郎	未来の電気自動車	
	12	42	7/1(金) 14:00~15:30	香美市	香長小学校	小4	10	物質工学科	三嶋尚史	海草から紙を作ろう	
	13	27	7/1(金) 13:45~14:35	室戸市	室戸中学校	中1~3	193	機械工学科	奥村勇人	NHKロボットコンテストに出場したロボットを中心にものづくりの楽しさと楽しさ	
	14	5	7/4(月) 9:40~12:30	須崎市	南小中学校	小1~6 中1~3	45 28	総合科学科	池谷江理子	地震・津波から命を守るには？	
	15	29	7/5(火) 9:30~11:30	佐川町	黒岩小学校	小5	7	機械工学科	北村一弘	ピンホールカメラをつくらう	
	16	39	7/11(月) 11:35~12:25	四万十市	東中筋中学校	中2	11	電気情報工学科	松内尚久	磁石と電磁石の不思議	
	17	43	7/12(火) 13:30~14:40	香美市	舟入小学校	小1	16	物質工学科	養 隆志	スライムを作ろう！	
	18	27	7/14(木) 14:25~15:15	四万十市	藤岡中学校	中1~3	31	機械工学科	奥村勇人	NHKロボットコンテストに出場したロボットを中心にものづくりの楽しさと楽しさ	
	19	27	7/15(金) 10:35~11:25	四万十市	東中筋中学校	中3	16	機械工学科	奥村勇人	NHKロボットコンテストに出場したロボットを中心にものづくりの楽しさと楽しさ	
	20	5	9/28(月) 14:30~15:20	土佐市	土佐南中学校	中1	34	総合科学科	池谷江理子	地震・津波から命を守るには？	
	21	5	9/29(木) 14:30~15:20	室戸市	佐喜浜中学校	中1~3	38	総合科学科	池谷江理子	地震・津波から命を守るには？	
	22	46	10/11(火) 13:50~15:30	中土佐町	上ノ加江小学校	小2~3	14	環境都市デザイン工学科	勇 秀憲	レインボーストローで美しい橋をつくらう！	
	23	15	10/11(火) 14:30~15:25	須崎市	南中学校	中1~3	28	機械工学科	杉山和久	電子顕微鏡で覗いたミクロの世界	
	24	35	10/14(金) 13:30~14:50	いの町	本川中学校	中1~3	18	電気情報工学科	今井一雅	宇宙とわたしたち	
	25	54	10/20(木) 13:30~15:40	四万十町	興津中学校	中1~3	13	環境都市デザイン工学科	横井克則	土木・建築工事の主役「コンクリート」のはなしと簡単な実験	
	26	52	10/25(火) 10:40~11:25	南国市	日章小学校	小6	40	環境都市デザイン工学科	岡林宏二郎	地層の成り立ち	
	27	52	10/27(木) 10:45~11:30	南国市	三和小学校	小6	36	環境都市デザイン工学科	岡林宏二郎	地層の成り立ち	

以下省略

(出典 産学技術交流のあゆみ第5号 P.12-13)

次に平成23年度の公開講座及びその参加人数を資料B-1-②-2に示す。公開講座は、15回開催されており、参加した延べ人数は、1,790名以上となる。イオンモール高知という集客力のある商業施設で開催した公開講座が非常に盛況であったためである。また、これに加えて、本校へ入学を希望する中学校3年生対象に施設の見学、学校及び各学科の説明、体験学習、クラブ見学を行う、体験入学を行っている。平成23年度の参加中学校数は、93校、中学生288名(うち女子51名)、中学校の先生・保護者参加数は、約221名が参加した。

資料B-1-②-2

「H23年度公開講座 一覧」

○公開講座(H23年度)

区分	タイトル	担当		日時	場所	対象者	募集人数	参加人数	受講料	備考	
		字	氏名								
学生・社会人対象	1 東日本大震災調査報告会(報告会)	Z	岡村宏二郎 岡田祥治	6/1(水) 15:00~17:00	グレース麻すし	社会人	300名	250名	無料	南国市との連携事業	
	2 技術士第一次試験受験講座			第1回6/4(土), 6/5(日), 第2回9/17(土), 9/18(日) 各9:00~17:00	本校 専攻科棟4階 小会議室	技術士資格取得予定者	20名	9名	3,000円/回(〒974-0-会員は2,000円/回)	(社)高知高等テクノフェローとの連携事業	
	3 市民対象の情報スキルアップ講座Ⅰ	E	今井一雅 高田耕一	6/11(土) 14:00~17:00	本校 情報処理センター演習室	一般	30名	31名	無料	南国市との連携事業 協賛:情報通信月間推進協議会	
	4 電験三種受験対策講座	E	藤原憲一郎 松内尚久 吉田正博	6/12(日), 19(日), 26(日), 7/3(日) 13:00~16:00	本校 E4教室	学生・社会人	20名	32名	全科目受講 3,000円(1科目毎 1,000円)	(社)高知高等テクノフェローとの連携事業	
	5 情報教育スキルアップ講座	E	今井一雅 高田耕一 西内悠祐	7/21(木) 9:00~16:00	本校 情報処理センター演習室	高知県小・中・高・特別支援学校教員	20名	16名	無料	共催:高知県教育センター	
	6 高知高等教養講座	ことばを遊ばす		松本知子	7/25(月) 13:30~16:45	大塚公民館	一般	各30名	無料	19名	南国市との連携事業 共催:南国市
		Where is Kochi?		David Grant	7/26(火) 13:30~16:45					14名	
		もう一つのヨーロッパ 東欧の旅		江口由由子	7/27(水) 13:30~15:00					19名	
		オーストラリアの現在		菅川諭孝	7/27(水) 15:15~16:45					16名	
		生の理解とリアリズムー写生論の可能性について	iss	佐々木正寿	7/28(木) 13:30~15:00	9名					
		やさしい英会話		今井典子	7/28(木) 15:15~16:45	13名					
		絵は絶舌!?!ー擬人化の魅力		永原順子	7/29(金) 13:30~15:00	9名					
	子どもと保育環境ー今、必要な子どもの発達支援とそれを支える条件とは?		池谷江理子	7/29(金) 15:15~16:45	7名						
	7 乙種第四種危険物取扱者試験対策講座	C	岡村博洋 長山和典 栗 隆志 大角 理人	8/4(日), 11(日), 25(日), 10/9(日) 13:00~16:00	本校 専攻科棟4階 講義室Ⅰ	学生・社会人	20名	9名	3,000円(付7/10~会員・学生は半額)	(社)高知高等テクノフェローとの連携事業	
	8 平成23年度第1回「橋梁の維持・管理・補修・補強」講習会	Z	岡村宏二郎 栗 隆志 橋井克則	8/16(金) 13:00~16:45 8/17(土) 8:30~16:45	高知市文化プラザがるぼーと11階大会議室及び橋梁現地	市町村の橋梁管理技術者・建設コンサルタントの橋梁技術者	50名	34名	テキスト代1,000円/冊	主催:四国地区高等地壇(ノバ)セッションセンター 共催:(社)高知高等テクノフェロー・土木学会四国支店高知地区	
9 南国市防災フォーラム ～地域で始める南海地震対策～	Z	岡村宏二郎 岡田祥治	11/20(日) 13:00~16:20	アンジェブラン	社会人	250名	136名	無料	南国市との連携事業 主催:南国市・高知高専 共催:(社)高知高等テクノフェロー		
10 市民対象の情報スキルアップ講座Ⅱ	E	今井一雅 高田耕一	12/3(土) 14:00~17:00	本校 情報処理センター演習室	社会人	30名	26名	無料	南国市との連携事業 共催:南国市		
11 平成23年度第2回「橋梁の維持・管理・補修・補強」講習会	Z	岡村宏二郎	12/15(木) 13:00~16:30 12/16(金) 8:30~16:30	本校 専攻科棟4階 大会議室	市町村の橋梁管理技術者・建設コンサルタントの橋梁技術者	50名	27名	テキスト代1,000円/冊	主催:四国地区高等地壇(ノバ)セッションセンター 共催:(社)高知高等テクノフェロー・土木学会四国支店高知地区		
小・中学生対象	12 高専ロボコンロボットに乗ろう	M	岸本誠一 幸松重利 奥村典人	6/19(土) 10:00~16:00	イオンモール高知 専門店舗 1階南コート	幼児~小・中学生	-	1000人以上	無料		
		E	西内悠祐								
		C	栗 隆志								
		Z	村本 英								
	13 こども金融・科学教室(高知市)	M	富田 剛	8/27(土) 10:00~12:00	高知銀行 本店	高知市内校に在籍の小4~小6	50名	46名	無料	高知銀行との連携事業	
14 キャンパスアドベンチャー2011	M	栗 隆志	11/5(土) 13:00~14:30	本校 専攻科棟1階 創造実験室	小5~中3	各25名	19名	無料(服装保護料100円)	協賛:(株)コスモバイオ公開講座産産団		
	E	芝 治也		本校 専攻科棟4階 講義室Ⅱ	小1~小4		24名				
15 こども金融・科学教室(京半利)	M	富田 剛	3/3(土) 10:00~12:30	京半利保健福祉センター	小4~小6	50名	27名	無料	高知銀行との連携事業		

(出典 産学技術交流のあゆみ第5号 P.11)

イベント等の出展タイトル及びその参加人数を資料B-1-②-3に示す。イベント等への出展は、15回開催されており、延べ参加者数は、930名となる。毎年要望されているが、学校行事と重なり、出展をあきらめたイベントもあることから、地域に認知されていることが伺える。

資料B-1-②-3

「イベント等への出展」

イベント等への出展(H23年度)												
:ブルー表示→H21, 22年度にも実施があったもの												
区分	タイトル	担当		日時	場所	対象者	募集人数	参加人数	参加人数 総計	実額料	備考	
		姓	氏名									
小・中学生対象 イベント等への出展	1 地産地消のこめんの軽トラ市	M	武内秀樹	8/5(日) 9:30~13:30	南国市後免町商店街	小中学生	全来場者 約	100名	100	無料	南国市との連携事業(南国市商工会よりの依頼)	
		E	西内悠祐									
		C	秦 陸志									
	2 高知市立横内小第一放課後児童クラブ・出前授業	レインボーストローで美しい橋を作ろう!	Z	秀 秀憲	7/25(月) 10:00~12:00	横内小第一放課後児童クラブ	小1~3		45名	45	無料	PTA等各種団体からの出前授業
	3 南国市夏休み子ども教室	南極の自然と科学技術	E	芝 治也	7/29(金) 10:00~12:00	本校 マルチメディア教室	南国市内校に在籍の小4~中3と保護者	25名	13名	13	無料	南国市との連携事業(南国市教育研究所よりの依頼)
		小学生ロボコン	M	赤松重則	7/30(土), 31(日) 各13:00~16:00	本校 マルチメディア教室	南国市内校に在籍の小4~小6	25名	25名	25		
	5 高知市立鶴田小第三放課後児童クラブ・出前授業	スライムを作ろう!	C	秦 陸志	8/1(月) 10:00~11:00	鶴田小第三放課後児童クラブ	小1~6と教員	生徒 教員	45 5名	50	無料	PTA等各種団体からの出前授業
	6 高知市立栗小第二放課後児童クラブ・出前授業	土木・建設工事の主役「コンクリート」のはなしと簡単な実験	Z	横井克則	8/9(火) 9:15~10:45	栗小第二放課後児童クラブ	小1~3と指導員	生徒 指導員	41 4名	45	無料	PTA等各種団体からの出前授業
	7 高知市立栗小第三放課後児童クラブ・出前授業	土木・建設工事の主役「コンクリート」のはなしと簡単な実験	Z	横井克則	8/9(火) 11:00~12:30	栗小第三放課後児童クラブ	小1~3と指導員	生徒 指導員	43 4名	47	無料	PTA等各種団体からの出前授業
	8 高知市立栗小第一放課後児童クラブ・出前授業	土木・建設工事の主役「コンクリート」のはなしと簡単な実験	Z	横井克則	8/19(金) 9:15~10:45	栗小第一放課後児童クラブ	小1~3と指導員	生徒 指導員	41 4名	45	無料	PTA等各種団体からの出前授業
	9 からくり半蔵研究会ものづくり教室	レゴロボット教室	M	赤松重則	8/5(金)9:00~12:00	からくり創造工房・大塚公民館	南国市内中学生	10名	10名	10	無料	南国市との連携事業(南国市教育委員会・からくり半蔵研究会よりの依頼)
	10 第15回科学体験フェスティバル in 大洲	レインボーストローできれいな家や橋をつくらう!	Z	秀 秀憲	10/22(土) 10:00~16:00	大洲青少年交流の家	小学生	全来場者 約	300名	300	無料	共催:大洲青少年交流の家(大洲青少年交流の家よりの依頼)
	11 子ども科学教室	地震の科学	Z	岡林宏二郎	11/19(土) 13:45~15:30	高知市子ども科学図書館	小3~6とその家族	生徒 保護者 指導員	55 20 7名	82	無料	(高知市子ども科学図書館よりの依頼)
	12 三和小学校ふれあい教室	電子工作(レゴロボット)	M	赤松重則	11/27(日) 8:50~12:00	南国市立三和小学校	小3~6 その保護者	20組	小学生 17名 とその保護者	34	無料	イベント等への出展
	13 安芸市立安芸第一小学校・学年PTA行事	土木・建設工事の主役「コンクリート」のはなしと簡単な実験	Z	横井克則	12/4(日) 13:00~15:00	安芸市立安芸第一小学校	小5 その保護者	生徒 保護者	70 60名	130	無料	PTA等各種団体からの出前授業
水の外から遠隔操作		Z	山崎慎一									
15 南国市立岡豊小学校・学年PTA行事	3D(3次元)の世界	M	杉山和久	12/8(木) 14:00~15:30	南国市立岡豊小学校	小4 その保護者	生徒 保護者	41 3名	44	無料	PTA等各種団体からの出前授業	

以下省略

(出典 産学技術交流のあゆみ第5号 P.12)

平成23年度のオープンキャンパスのチラシを資料B-1-②-4に示す。オープンキャンパスは、将来的な本校への入学希望者を増加させる目的で平成19年度から毎年夏休み中の土日に実施しており、各学科で用意した様々なイベントを開催している。参加者名簿に記載された名前は、平成19年度312名、平成20年度508名、平成21年度692名、平成22年度705名、平成23年度762名と年々増加傾向を示す。これから、本校の開催するオープンキャンパスが地域に認知されてきたことがわかる。本校に入学した1年生を対象としたアンケートでも入学前の年度にオープンキャンパスに参加した学生は、約40%に上る。科学に興味を持っていただく機会を地域の皆様に提供できていると考えている。

「H23年度オープンキャンパス チラシ」

平成23年度 **高知工業高等専門学校**

オープンキャンパス

体験学習の整理券を、午前のテーマは9時から、午後のテーマは12時30分から配るよ！先着順だから、みんな受付の列に並んでね！

対象
小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒、保護者、教員(申し込みは不要です。)

お問い合わせ先
高知工業高等専門学校
〒783-8508 高知県南国市物部乙200番1
Tel. 088-864-5623 (学生課)
Fax. 088-864-5536 (学生課)
ホームページ <http://www.kochi-ct.ac.jp/>

●本校までの交通案内 (駐車場はあります)
-高知空港連絡バス(高知駅から所要時間約40分)
-JR高知駅一はりまや橋-高知高等専
-タクシー利用
-JR後免駅及び土佐後免駅よりタクシーで15分(6km)程度で到着します。

平成23年
7月30日 土
7月31日 日
9:30~15:30
(受付は、両日とも9:00から行きます。)

開催の有無は、当日午前6時に高知高専ホームページに掲載しますのでご確認ください。

体験学習のテーマ一覧(2日間とも同じ)

人数制限のあるテーマについては、総合受付(総合科学科棟玄関前)で整理券をお受け取りください。

学科	場所	9:30~10:30	10:50~11:50	12:00~13:00	13:10~14:10	14:30~15:30	15:30~
総合科学	図書館 視聴覚教室	問題解説と入試対策 (中学生対象 人数制限なし) ①理科(9:30~10:15) ②数学(10:20~11:05) ③数学(11:10~11:55)	問題解説と入試対策 (中学生対象 人数制限なし) 今年2月に行われた学力調査の問題の中でポイントとなる問題を解説します。また、春期および夏期授業の取組等として参加予定の学習を行います。	学校紹介 ビデオ上映	問題解説と入試対策 (中学生対象 人数制限なし) ④国語(13:10~13:55) ⑤社会(14:00~14:45)	太陽電池型ロボットをつくり、走らせてみよう！ (小学生対象 人数制限なし) 2次元平面上の動き、立体的な動きを取り入れて学習して頂きます。その中で既知の法則や興味をもち、3Dの世界を体験してみよう！	
機械工学	機械工学科棟	太陽電池型ロボットをつくり、走らせてみよう！ (小学4~6年生対象 10名)	太陽電池型ロボットをつくり、走らせてみよう！ (小学4~6年生対象 10名)	紙を使って色々なタイプのロボットを作ってみよう！ (小学生対象 人数制限なし) 3Dの世界を体験してみよう！ (小学生対象 人数制限なし) 13:10~14:10	紙を使って色々なタイプのロボットを作ってみよう！ (小学生対象 人数制限なし) 3Dの世界を体験してみよう！ (小学生対象 人数制限なし) 13:10~14:10	紙を使って色々なタイプのロボットを作ってみよう！ (小学4~6年生対象 10名)	
	専攻科棟 第2体育館	ミクロの世界をのぞいてみよう！ (小中学生対象 16名) 9:30~10:30	ミクロの世界をのぞいてみよう！ (小中学生対象 16名) 9:30~10:30	ロボット大会 (小学生対象 何人でも見学可) 12:00~15:30	ロボット大会 (小学生対象 何人でも見学可) 12:00~15:30	ロボット大会 (小学生対象 何人でも見学可) 12:00~15:30	
電気工学	電気情報工学科棟	電石の不思議体験 (小学生対象 30名) 9:30~10:30	電石の不思議体験 (小学生対象 30名) 9:30~10:30	サッカーロボットを製作と競技 (小学生対象 10名) 13:10~14:10	サッカーロボットを製作と競技 (小学生対象 10名) 13:10~14:10	サッカーロボットを製作と競技 (小学生対象 10名) 13:10~14:10	
	物質工学科棟	化学顕微鏡法による鏡作り (中学生対象 20名) 9:30~10:30	化学顕微鏡法による鏡作り (中学生対象 20名) 9:30~10:30	自然エネルギー：熱から発電する材料を電気抵抗ゼロの材料 (小学生対象 20名) 13:10~14:10	自然エネルギー：熱から発電する材料を電気抵抗ゼロの材料 (小学生対象 20名) 13:10~14:10	自然エネルギー：熱から発電する材料を電気抵抗ゼロの材料 (小学生対象 20名) 13:10~14:10	
物質工学	物質工学科棟前	化学の不思議体験！ (小学生対象 人数制限なし) 10:00~12:00	化学の不思議体験！ (小学生対象 人数制限なし) 10:00~12:00	昼食 (11:00~14:00) 間は学生食堂が利用できます。	昼食 (11:00~14:00) 間は学生食堂が利用できます。	昼食 (11:00~14:00) 間は学生食堂が利用できます。	
	生物工学科棟	メダカ釣り大会 in 高知高専 (小学生対象 人数制限なし) 9:30~14:00(昼休みも可)	メダカ釣り大会 in 高知高専 (小学生対象 人数制限なし) 9:30~14:00(昼休みも可)	メダカ釣り大会 in 高知高専 (小学生対象 人数制限なし) 9:30~14:00(昼休みも可)	メダカ釣り大会 in 高知高専 (小学生対象 人数制限なし) 9:30~14:00(昼休みも可)	メダカ釣り大会 in 高知高専 (小学生対象 人数制限なし) 9:30~14:00(昼休みも可)	
環境都市デザイン工学	環境都市デザイン工学科棟	ラジコン建設機械でタイムレース (小学生対象 16名) 9:30~10:30	ラジコン建設機械でタイムレース (小学生対象 16名) 9:30~10:30	ラジコン建設機械でタイムレース (小学生対象 16名) 13:10~14:10	ラジコン建設機械でタイムレース (小学生対象 16名) 13:10~14:10	ラジコン建設機械でタイムレース (小学生対象 16名) 13:10~14:10	
	環境都市デザイン工学科棟前広場	たんで、広げて 大きなドーム (小学生対象 人数制限なし) 9:30~11:50	たんで、広げて 大きなドーム (小学生対象 人数制限なし) 9:30~11:50	たんで、広げて 大きなドーム (小学生対象 人数制限なし) 9:30~11:50	たんで、広げて 大きなドーム (小学生対象 人数制限なし) 9:30~11:50	たんで、広げて 大きなドーム (小学生対象 人数制限なし) 9:30~11:50	
学科別の展示コーナー	学科別にいろいろな展示があります！見に来てね！						

(出典 高知高専ウェブサイト <http://www.kochi-ct.ac.jp/oc/oc2011.pdf>)

出前授業の感想及び改善点などを抜粋した資料を資料B-1-②-5に示す。これは、小中学校から、送付されてきた出前授業受講報告書から抜粋した内容である。

資料B-1-②-5

「H23年度出前授業 評価」

○出前授業(H23年度)：評価

No.	日時	対象				担当教員		タイトル	評価	
		市町村	学校名	学年	人数	学科	氏名		感想	改善点等
1	6/7(火) 13:20~15:10	高知市	春野中学校	中1	115	環境都市デザイン工学科	岡林宏二郎	南海地震による被害を学ぼう		受講時間を短くする。専門的な言葉がやや理解しにくかった。
2	6/9(木) 13:55~14:40	香美市	舟入小学校	小5	19	総合科	David Grant	All of Sounds of the English		打ち合わせ時間をもう少し確保できたらよいと思う。
3	6/28(火) 10:35~11:20	中土佐町	上ノ加江小学校	小4~5	16	電気情報工学科	松内尚久	磁石の不思議	実際に磁石を児童全員に持たせ遊ぶ時間をとってもらった事でより磁石への興味が強くなったと思う。今後の授業が意欲的に学習できそうです。	
4	6/28(火) 10:50~12:30	安芸市	井ノ口小学校	小4	18	電気情報工学科	藤原憲一郎	未来の電気自動車		図面だけではわかりにくい子どもがいるので、席が後ろの子でも見えるような大きな模型をスクリーンの映像と同時に使って説明してはどうか。
5	7/1(金) 13:45~14:35	室戸市	室戸中学校	中1~3	193	機械工学科	奥村勇人	NHKロボットコンテストに出場したロボットを中心にもつくりの難しさと楽しさ	出前授業を通して達成感・仲間の大切さなど生徒に夢や希望を与えていただき、生徒自身の進路にもつながる良い機会となった。	
6	7/5(火) 9:30~11:30	佐川町	黒岩小学校	小5	7	機械工学科	北村一弘	ピンホールカメラをつくらう		天気を考慮して、キットの穴の大きさが異なるカメラが用意されていればよいと思う。
7	7/11(月) 11:35~12:25	四万十市	東中筋中学校	中2	11	電気情報工学科	松内尚久	磁石と電磁石の不思議		事前にもう少し詳しく打ち合わせできれば、更に普段の授業とのつながりがあるものになったと思う。

以下省略

(出典 総務企画係)

公開講座のテーマ及び満足度を資料B-1-②-6に示す。これは、講座終了後にアンケートを配布し、それを集計したものである。

資料B-1-②-6

「H23年度公開講座 満足度」

○公開講座(H23年度)満足度

区分	タイトル	担当	日時	満足度(%)	
公	1 市民対象の情報スキルアップ講座 I	E 栗田 耕一 今井 一雅	6/11(土) 14:00~17:00	93.1	
	2 電験三種受験対策講座	E 藤原 憲一郎 松内 尚久 吉田 正伸	6/12(日), 19(日), 26(日), 7/3(日) 13:00~16:00	88.9	
	3 情報教育スキルアップ講座	E 栗田 耕一 今井 一雅	7/21(木) 9:00~16:00	87.5	
	4 高知高専教養講座	ことばを意識する	松本 知子	7/25(月) 13:30~16:45	84.2
		Where is Kochi?	David Grant	7/26(火) 13:30~16:45	90.9
		もう一つのヨーロッパー東欧の旅	江口 布由子	7/27(水) 13:30~15:00	81.3
		オーストラリアの現在	宮川 敬香	7/27(水) 15:15~16:45	56.3
		生の理解とリアリズムー写生論の可能性について	ias 佐々木 正寿	7/28(木) 13:30~15:00	100
		やさしい英会話	今井 典子	7/28(木) 15:15~16:45	100
		能は饒舌！？ー擬人化の魅力	永原 順子	7/29(金) 13:30~15:00	88.9
子どもと保育環境ー今、必要な子どもの発達支援とそれを支える条件とは？	池谷 江理子	7/29(金) 15:15~16:45	83.3		

以下省略

(出典 総務企画係)

また、体験入学におけるアンケート集計結果の抜粋資料を資料B-1-②-7に示す。

資料B-1-②-7

「平成23年度体験入学 アンケート集計結果」

平成23年度体験入学 アンケート集計結果

1. 回答数

男子中学生	118	239	238	49.6
女子中学生	26	51	51	
先生	11	43	221	49.0
保護者	84	161		
計	239	494	510	46.9
	[243]	[479]	[502]	[47.6]

〔 〕は昨年度

2. 建物や設備、学生の授業などを見て

回答	中学生	先生	保護者	%	昨年%
1. 良かった	138 (26)	10	69	90.8	81.5
2. 普通	6 (0)	1	11	7.5	13.6
3. 良くなかった	0 (0)	0	1	0.4	0.4
無回答	0 (0)	0	3	1.3	4.5
計	144 (26)	11	84	100.0	100.0

()は女子内数

3. 「体験学習」のテーマは

別紙のとおり

4. クラブ活動の見学は

回答	中学生	先生	保護者	%	昨年%
1. 良かった	88 (21)	2	24	47.7	33.3
2. 普通	16 (2)	1	6	9.6	11.1
3. 良くなかった	1 (0)	0	1	0.8	0.4
無回答	39 (3)	8	53	41.8	55.1
計	144 (26)	11	84	99.9	99.9

()は女子内数

5. 「体験入学」に参加して

回答	中学生	先生	保護者	%	昨年%
1. 良かった	139 (26)	4	63	87.0	88.1
2. 普通	3 (0)	0	2	2.1	2.9
3. 良くなかった	0 (0)	0	0	0.0	0.0
無回答	2 (0)	7	12	10.9	9.1
計	144 (26)	11	84	100.0	100.0

()は女子内数

6. 本校を受験したい(させたい)と思いますか?

回答	中学生	先生	保護者	%	昨年%
1. はい	120 (24)	8	72	83.7	79.4
2. いいえ	0 (0)	0	0	0.0	0.4
3. わからぬ/ない	21 (2)	0	7	11.7	17.3
無回答	3 (0)	3	5	4.6	2.9
計	144 (26)	11	84	100.0	100.0

()は女子内数

7. (先生・保護者の方へ)学校説明会は

回答	先生	保護者	%	昨年%
1. 良かった	10	68	82.1	74.2
2. 普通	0	14	14.7	23.6
3. 良くなかった	0	0	0.0	0.0
無回答	1	3	3.2	2.2
計	11	84	100.0	100.0

3. 「体験学習」は何番のテーマでしたか?

科	番号	テーマ	参加人数	回答者数		回答1 良かった		回答2 普通		回答3 良くなかった		無回答	
				男	女	男	女	男	女	男	女		
I	1	コンピュータでアニメーションを作ろう	16	6	1	4	1	2	0	0	0	0	0
	2	蛇型ロボットを作ってみよう	11	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	3	手作りロボットコンテスト	32	13	1	12	1	1	0	0	0	0	0
	4	金属を溶かして置物づくり	12	5	0	4	0	0	0	0	0	0	1
	5	“レーザー”って何?	12	3	2	3	2	0	0	0	0	0	0
M	6	無線LANロボットAIBO君とネットワークを探索	20	5	1	3	1	1	0	0	0	0	1
	7	災害時でも聞こえる無線ラジオを製作しよう	11	7	2	7	2	0	0	0	0	0	0
	8	ペットボトル風力発電装置を製作	6	4	0	3	0	1	0	0	0	0	0
	9	トルネードロボットの製作とバトル	21	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0
	10	発光ダイオードを使って色々な色を作ってみよう	10	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0
	11	船隻を制御にする電子回路Dravidioを作ってみよう	11	4	0	3	0	1	0	0	0	0	0
C	12	化学の不思議探検!	29	17	6	17	6	0	0	0	0	0	0
	13	生物の不思議探検!	24	8	4	6	3	1	0	0	0	1	1
	14	あなかもガラス戦士になってみませんか?!	9	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0
	15	南海地震に備えてのおもしろ実験	13	8	0	7	0	1	0	0	0	0	0
Z	16	おいしい水を飲んでもみよう、超高度コンクリートを探し出してみよう	20	9	1	8	0	1	0	0	0	0	1
	17	コンピュータでマイホームデザイン	19	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0
	18	紙モデルで住宅をつくらう	6	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	19	3D建物が飛び出すぞ!	7	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0

3. 「体験学習」受講してどうでしたか?

科	番号	テーマ	参加人数	回答者数		回答1 良かった		回答2 普通		回答3 良くなかった		無回答	
				男	女	男	女	男	女	男	女		
I	1	コンピュータでアニメーションを作ろう	16	6	1	4	1	2	0	0	0	0	0

回答:1(良かった) とても楽しく参考になった。楽しかった。むずかしい所もあったけど楽しめました。

回答:2(普通) そう感じたから。

科	番号	テーマ	参加人数	回答者数		回答1 良かった		回答2 普通		回答3 良くなかった		無回答	
				男	女	男	女	男	女	男	女		
M	2	蛇型ロボットを作ってみよう	11	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0

回答:1(良かった) とても楽しむことができました。とても楽しかった。この高校の実験がよく知れたから。はんだ付けが楽しかった。結局失敗したのも良い経験になった。楽しかったから。

科	番号	テーマ	参加人数	回答者数		回答1 良かった		回答2 普通		回答3 良くなかった		無回答	
				男	女	男	女	男	女	男	女		
M	3	手作りロボットコンテスト	32	13	1	12	1	1	0	0	0	0	0

回答:1(良かった) わずかしかったけど、いい作品ができた。おもしろくて、先輩が丁寧に教えてくれたから。楽しむことができた。先輩が詳しく説明してくれた。時間が、みなさんがやさしかったので、分がやすかった。以前したことだったので分かやすかった。楽しかったことあったけど、楽しくすることが出来たから。楽しかったから。おもしろかった。ロボットの組み立ては、思ったより難しかったですが、楽しかったです。楽しかった。先輩方が優しかったです。男子ばかりでええー!と思ったけど、楽しかったです。(保護者) ロボットの作り方を上級生が丁寧に指導してくれているのがよかったです。

回答:2(普通) 図などで説明してくれた。

以下省略
(出典 教務委員会資料 平成23年度体験入学実施報告)

アンケートの結果から、参加者、受講者は満足していると言える。不十分な項目、不満に思っている項目については、保護者、小中学生、小・中・高校教員、地域住民、企業等が満足いくよう、次年度の計画を立てる際に十分配慮できるように、次に述べるような体制をとっている。

次年度に実施するテーマは前年度の1月から3月の期間に各学科、関係委員会などで検討し、実施するようになっており、その時点で、受講生の意見、アンケート結果を踏まえて、各学科などで、テーマの見直し（修正、追加、削除など）を行い、保護者、小中学生、小・中・高校教員、地域住民、企業等の意見、要望をより反映したものになるように努めている。その結果に従って、地域連携センター運営委員会で審議し、運営会議の承認を経て、実施することになっている。

（分析結果とその根拠理由）

アンケート結果から、不十分な項目、不満に思っている項目については、次年度に、保護者、小中学生、小・中・高校教員、地域住民、企業等の意見、要望をより反映したものになるように努めている。その結果に従って、各学科で検討し、地域連携センター運営委員会の審議を経て、運営会議で承認し、決定している。受講者、参加者はおおむね満足しているが、さらなる改善が必要なものもあることがわかる。

以上のことより、改善のためのシステムがあり機能しており、活動の成果が上がっているといえる。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

アンケートには、自由意見を記述する項目を設定し、受講者、参加者の生の声が聞けるようにしている。その結果を次年度の実施内容、実施時期、実施場所などの検討材料とし、より広く、より多くの保護者、小中学生、小・中・高校教員、地域住民、企業の方々に興味を持っていただき、積極的に参加していただけるよう、企画、実施内容に工夫をするなどして努力している。

（改善を要する点）

特になし

（3）選択的評価事項Bの自己評価の概要

地域との連携を密とし、高専の有する人的資源を有効に活用することによって、地域の活性化に寄与するための拠点となることを目指す。出前授業や企業における人材育成事業など地域における教育支援を行い、総じて地域文化の向上に資することを目的とする。地域社会に開かれた学校として、教育研究の成果を広く社会へ還元し、地域住民の生涯学習、地域貢献、社会との連携を積極的に推進するために、保護者、小中学生、小・中・高校教員、地域住民、企業等に対して、各種学校開放事業を、毎年積極的に実施している。

アンケート結果から、不十分な項目、不満に思っている項目については、次年度に、保護者、

小中学生，小・中・高校教員，地域住民，企業等の意見，要望をより反映したものになるように努めている。その結果に従って，各学科で検討し，地域連携センター運営委員会の審議を経て，運営会議で承認し，決定している。受講者，参加者はおおむね満足しているが改善が必要なものもあることがわかる。

(4) 目的の達成状況の判断

地域社会に開かれた学校として，教育研究の成果を広く社会へ還元する目的で，地域住民の生涯学習，地域貢献，社会との連携，地域社会との交流などの一環として，保護者，小中学生，小・中・高校教員，地域住民，企業等に対して学校開放事業を積極的に取り組んでおり，アンケート結果などからも，十分にその目的を達成していると言える。

さらに，各学科及び関係委員会など学校全体が一丸となって，開放事業の企画・実施・評価などに積極的に取り組んでいる。

以上のことより，目的は十分に達成されていると言える。